

平成 30 年 7 月豪雨災害 社会福祉法人

岡山市災害ボランティアセンター 活動報告書



一緒に
のりて
いきましょう!

がんばろう!
岡山



社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会

発行にあたって

平成30年7月豪雨から1年半が経過しました。岡山市をはじめ岡山県内の被災された方の中には、いまなお不自由な生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃると思います。改めて被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く平穏な日々が戻ってきますことを、また被災地の一日も早い復興をお祈りしています。

近年は全国各地で自然災害が多発し、ひとたび災害が起こると災害救助法が適用となることが多くなりました。一昨年の西日本豪雨災害では、7月5日から7日にかけて、岡山市でも数十年に一度と言われるほどの記録的な豪雨になりました。特に7月6日夜から7日未明にかけては大雨特別警報が発令され、岡山市内でも堤防の決壊や河川の氾濫により住宅の床上・床下浸水が7,700世帯に及び、市内各所で道路の冠水や土砂崩れが発生するなど、平成で最大となる極めて甚大な災害が発生しました。

岡山市社会福祉協議会では、この豪雨災害の発生を受けまして、岡山市との災害支援協定に基づいて、7月11日に北区（大供公園）と東区（上道公民館）の2か所に、早急に災害ボランティアセンターを開設しました。

豪雨のあとは連日の猛暑にもかかわらず、全国からボランティアのみなさんが駆け付けてくださり、被災された家屋から、家財の搬出や畳上げ・泥出し、家屋の消毒・清掃などの復旧作業に取り組んでくださり、最終的には延べ約8,300名のみなさんにご協力をいただきました。

また災害ボランティアセンターの活動に対して、全国の皆様から支援物資や義援金をたくさん届けていただき、改めて助け合いの心を強く実感した次第です。ボランティアの皆様とご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

この報告書は、岡山市社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置・運営してきた記録を後世に引き継いでいくための資料として作成したものです。本誌の作成にあたり、資料提供や取材など、ご協力をいただきました皆様には心からお礼を申し上げ、発行にあたってのごあいさついたします。

令和2年3月

社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会
会 長 内 田 通 子

目次

発行にあたって

- ・ 社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会 会長 内田 通子 1

第 1 章 岡山市豪雨災害発生の経過

- ・ 災害発生の背景 4
- ・ 気象に関する注意報・警報等と主な経過、岡山市の被害状況 5

第 2 章 災害ボランティアセンターの概要

- ・ 岡山市災害ボランティアセンターの開設について 12
- ・ 運営タイムテーブル 13
- ・ ボランティアの活動内容 14
- ・ 災害ボランティアセンターの経過 15
- ・ ボランティア活動の状況 19
- ・ 関係機関等からの運営協力、支援物資、支援金 20
- ・ 団体・地域との連携 21
- ・ 災害ボランティアセンター本部の役割 22

第 3 章 北区災害ボランティアセンター

- ・ 地域の特色 24
- ・ 被害状況 25
- ・ ボランティア活動拠点、組織体制 26
- ・ 北区災害ボランティアセンターのレイアウト図、北区災害及び復旧支援ボランティアセンターでの活動 . . . 27

第 4 章 東区災害ボランティアセンター

- ・ 地域の特色、被害状況 30
- ・ ボランティア活動拠点、組織体制 31
- ・ 東区災害ボランティアセンターのレイアウト図、東区災害及び復旧支援ボランティアセンターでの活動 . . . 32

第 5 章 岡山市豪雨災害での活動をふりかえって

- ・ 近畿ブロック応援職員 36
- ・ 中国ブロック応援職員 37
- ・ 県内社会福祉協議会応援職員 38
- ・ 支援者として 41

第 6 章 被災者支援活動への対応から見えた課題と今後の取り組み

- ・ ニーズについて 46
- ・ 運営について、他機関との連携 47
- ・ 情報について 48

第 7 章 資料

- ・ 関連記事（山陽新聞社提供） 50
- ・ 写真 53

あとがき

- ・ 社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会 常務理事 山上 晃稔 56

第1章

岡山市豪雨災害発生の経過

第1章 岡山市豪雨災害発生の経過

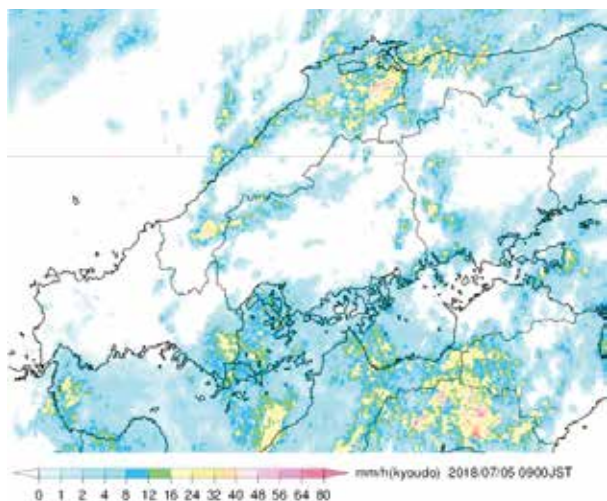
■ 災害発生の背景

6月29日(金)9時に日本の南海上で発生した台風第7号は、7月3日(火)夜に対馬海峡を通過し、4日(水)には日本海に進み同日15時に日本海中部で温帯低気圧に変わりました。その後、この低気圧からのびる梅雨前線が西日本上空に停滞し、南からの暖かく湿った空気が流れ込み続けたことで前線の活動が非常に活発となりました。

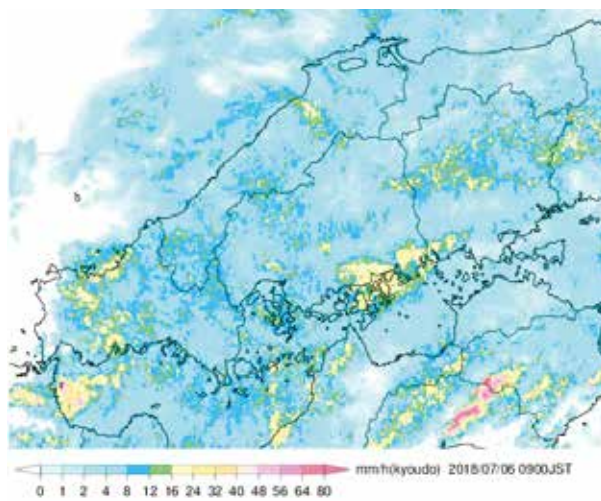
このため岡山県では8日(日)にかけて記録的な大雨となり、6日(金)夜には県内24市町村に大雨特別警報が発表されました。この大雨の影響で、岡山県内では死者50名、行方不明者5名の人的被害に加え、床上浸水約4,020棟、床下浸水約5,330棟などの住家被害、さらには小田川など県内の複数の河川で堤防決壊などの甚大な被害が発生しました。

○ 雨雲レーダー

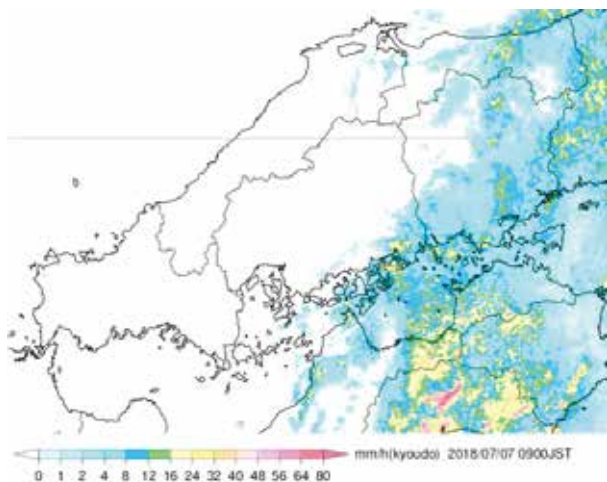
(平成30年7月5日(木)～8日(日)の天候)



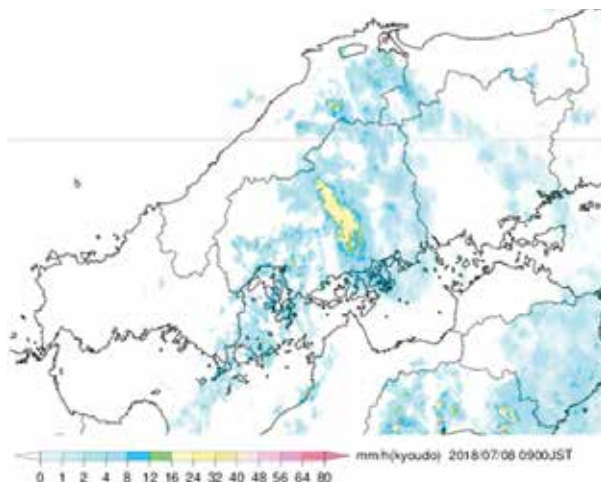
7月5日(木) 9:00



7月6日(金) 9:00



7月7日(土) 9:00



7月8日(日) 9:00

【出典】 気象庁「平成30年7月3日から8日にかけての台風第7号と梅雨前線による大雨について (岡山県の気象速報)」

■ 気象に関する注意報・警報等と主な経過(7月5日(木)から7月8日(日)まで)

日付	時刻	警報・注意報
7月5日(木)	15時39分	大雨・土砂災害警報発表
	19時13分	大雨・土砂災害警報継続 洪水警報発表
	19時40分	大雨・土砂災害、洪水警報継続 浸水害警報発表
7月6日(金)	5時53分	浸水害警報解除 大雨・土砂災害、洪水警報継続
	21時35分	大雨特別警報発表 土砂災害、洪水警報継続
7月7日(土)	4時25分	大雨特別・土砂災害、洪水警報継続
	15時10分	大雨特別警報解除 大雨・土砂災害、洪水警報継続
7月8日(日)	2時32分	大雨・土砂災害警報継続 洪水注意報継続
	22時41分	大雨・洪水注意報継続

【出典・参考】 気象庁「平成30年7月3日から8日にかけての台風第7号と梅雨前線による大雨について(岡山県の気象速報)」をもとに作成

■ 岡山市の被害状況

岡山市は、西日本豪雨による住宅の浸水が岡山県内で最も多く、平成以降で最大の被害となりました。市災害対策本部によると、7月7日(土)の現地調査にて、北区御津国ヶ原の雇用促進団地付近の旭川堤防左岸200mが決壊しているのが確認されました。道路は落石の恐れや路肩崩壊などの危険性があり、県道では25ヶ所で全面通行止めが続きました。東区では平島地内左岸100m程度が決壊し、平島地区一帯は約2,230棟の浸水被害を受けました。決壊地点の東から南東にかけ1キロほどの範囲に200世帯前後の大規模団地(平島団地・南古都団地・小鳥の森団地)が広がり、決壊した水が流れ込んで被害が拡大したとみられます。団地は砂川とほぼ同じ高さの平地にあり、浸水被害の約7割は床上浸水でした。

○ 人的被害 (名)

区分		
死者	2	総社市でお亡くなりになられた方
行方不明	0	
負傷者	4	軽傷 4 名

(平成 31 年 3 月 29 日時点)

○ 建物被害の状況 (件)

区分	北区	中区	東区	南区	合計
全壊	1	0	0	0	1
半壊	1	0	0	0	1
一部損壊	3	0	0	0	3
床上浸水	1,684	2	1,569	1	3,256
床下浸水	3,648	33	661	47	4,389
合計	5,337	35	2,230	48	7,650

(平成 30 年 7 月 17 日現在)

○ 非住家被害 (件)

区分	北区	中区	東区	南区	合計
全壊	2	0	0	0	2
半壊	0	0	0	0	0
一部損壊(半壊に至らない)	8	0	1	0	9
床上浸水	57	3	17	1	78
床下浸水	16	5	2	1	24
その他	0	0	0	0	0
合計	83	8	20	2	113

(平成 31 年 3 月 29 日時点)

【出典】岡山市

○ 被害状況



大雨で浸水した旧国道53号沿いの家屋や車＝北区津高
(山陽新聞社提供)



市道の崩落で孤立状態となった菅野地区
(山陽新聞社提供)



流失した「幸福橋」＝北区建部
(山陽新聞社提供)



堤防が崩落した冠光寺池
(岡山市広報広聴課提供)



花尻ききょう町（岡山市広報広聴課提供）



崩れた土砂や倒木で覆われた道路。タイヤも散乱していた＝岡山市
北区栢谷（山陽新聞社提供）



50メートルにわたって旭川の堤防が崩落した現場＝北区御津国ヶ原
（山陽新聞社提供）



西日本豪雨で浸水した岡山市東区平島地区
(撮影：アジア航測（株）)



決壊した砂川の堤防
(山陽新聞社提供)



平島小学校周辺
(一般提供)



東区南古都周辺
(岡山市危機管理室提供)



砂川 仮土のう
(岡山市広報広聴課提供)



上道公園野球場に設置された災害ごみ置き場＝竹原
(職員撮影)



家具や家電などの災害ごみが積まれた公園＝南古都
(職員撮影)

第2章

災害ボランティアセンターの概要

第2章

災害ボランティアセンターの概要

■ 岡山市災害ボランティアセンターの開設について

平成30年7月6日(金)、大雨により正午から新幹線や在来線の運休があいつぎ、同日22時45分、岡山市全域(東区吉井川以东を除く)に避難指示(緊急)が発令されました。7月7日(土)、水害により岡山市社協は、瀬戸分室・建部分室・児童館・ほのぼの荘を休館しました。

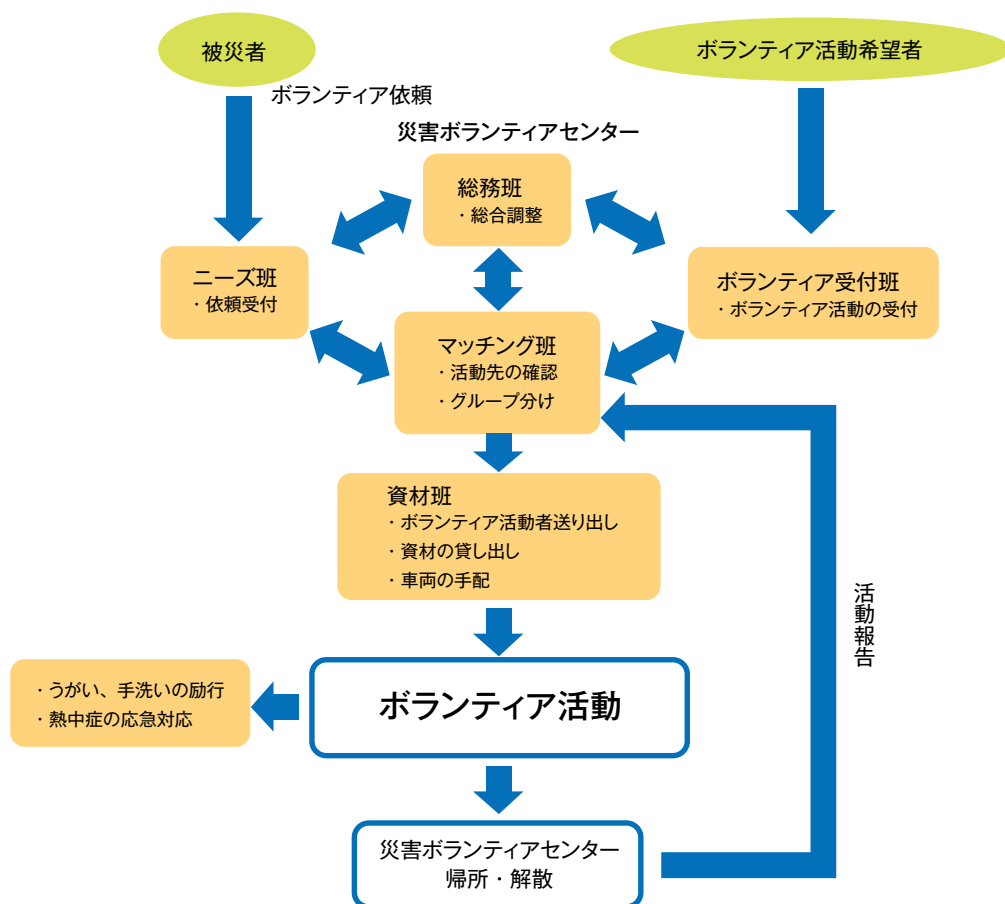
7月8日(日)8時、河川の水位が下がり、避難指示が解除されました。同日、会長と職員が東区の避難所を訪ね、現地の状況を確認し、会長から災害ボランティアセンターの早急な開設の指示がありました。

7月9日(月)、岡山市と協議を行い、北区(大供公園)と東区(上道公民館)に災害ボランティアセンターを設置することが決定しました。

7月10日(火)、災害ボランティアセンターの周知やボランティアの申込受付開始など設置準備を行い、7月11日(水)、災害ボランティアセンターを開設しました。

○ 災害ボランティアセンターの仕組みと役割

岡山市災害ボランティアセンターの主な役割は、ボランティア活動をしたい人とボランティアに来てほしい人の調整役です。業務ごとに班に分かれて、ボランティア活動者の調整と送り出しを行います。



運営タイムテーブル

センター	全体	受付関係		ニーズ班		マッチング班			資材・送迎
セクション	総務	ボランティア受付・保険	高速道路	電話・ニーズ	現場調査	オリエンテーション	マッチング	活動報告	資材・車両
8:00	ボランティアセンター全体朝礼・各セクション準備・連絡事項・引き継ぎ								
9:00	ボランティアセンター業務開始								
	随時電話対応	受付開始	受付開始(随時)	随時電話対応		随時	随時		
9:30	8:00頃からボランティアが集まりだす。状況を見て、早めに受付開始するかを各ボランティアセンターと本部で連絡を取り合い判断する。	手続きに時間がかかるため、活動に行く前に手続きすることをアナウンス。			随時 受付を済ませたボランティアに注意事項等を説明。				【資材】 必要資材を調達。 大目に見積もって資材を用意する。 【車両】 ボランティアの自家用車乗りあい、軽トラ貸出。
10:00									
10:30									
11:00									
11:30	定員に達した場合には、時間より早く受付を終了。	11:00終了		ボランティア問い合わせ 新規受付は随時受け、継続ニーズ確認。再依頼があれば再ニーズ調整。			午前終了		
12:00									
12:30						①午後希望ニーズ、②集積所(東のみ)、③既存活動への人数追加。			活動から帰ってきたら、資材を返却し、活動報告を行う。
13:00									
13:30									
14:00					翌日マッチング案件(10件程度)の平日電話。		送り出し終了		ボランティア活動14:00終了。 15:00までにはセンターへ戻って来てもらう。
14:30				翌日の事前電話					
15:00									
15:30						・資材・物資等の片付けと在庫管理。 ・地元ボランティア、住民との情報交換や新規ニーズについて整理。			
16:00	ボランティアセンター閉所								
	後片付けと事務整理								
16:30		件数集計		件数集計				件数集計	
17:00	ボランティアセンター全体終礼(スタッフミーティング)								
	各部門からの報告、問題点、翌日以降の活動方針を協議。								
17:30	各センターの班長と本部職員が出席し、活動件数やボランティア数の報告、翌日のボランティア受付人数等について協議。								
18:00	スカイプによる各ボランティアセンターと本部との情報共有会議								

■ ボランティアの活動内容

主な活動内容は、家屋の泥だしや家財の搬出入・撤去、家屋内の清掃などでした。その他にも、土のう袋の片づけや、災害ボランティアのチラシのポスティングといった作業もありました。なかには「ボランティア活動後に話をきいてもらってうれしかった」と一人暮らしの高齢者の方からお礼の手紙をいただき、職員一同その手紙が励みになりました。

また、清掃や搬出入といった現場での活動だけでなく、ボランティアセンター運営のボランティアやおしぼり洗濯ボランティアとして活動してくださる方もいました。ボランティアの方へ渡す冷たいおしぼりの洗濯から乾燥、たたむところまで仕事と子育ての合間をぬって、毎日欠かさず、支援してくださいました。



○ 災害ボランティア1日の流れ

時間	内容	備考
9:00~11:00	受付	・ ボランティア受付 ・ ボランティア保険の加入手続き（350 円／人） ・ 高速道路無料減免申請の手続き
	オリエンテーション	・ ボランティアの心得、活動先での留意点 注意事項（危険地帯の周知、怪我や事故の対応）等の説明
	マッチング	・ 活動先のマッチング ・ リーダー、タイムキーパーの決定
	資材の準備	・ 必要な資材や道具、車両の準備
	活動開始	・ 担当した地域へ出発し、活動開始
14:00	活動終了	・ ボランティアセンターに帰所
	活動報告	・ 活動報告書の記入、特記事項等の確認 ・ ボランティア活動証明書発行
15:00	解散	

■ 災害ボランティアセンターの経過

日付	本部	北区	東区
7/5(木)	・気象庁の臨時記者会見にて嚴重な警戒の呼び掛けを受け、警戒態勢を敷く		
7/6(金)			
7/7(土)	・瀬戸分室、建部分室、児童館、ほのぼの荘を休館		
7/8(日)	・会長と職員が現地を訪問し、被災状況を確認 ・会長より災害ボランティアセンターの早急な開設指示 ・緊急幹部会の実施、災害ボランティアセンター開設の決定、設置場所等の検討 ・設置場所について岡山市市民協働局と共に情報収集 ・岡山市災害対策本部にて情報収集		
7/9(月)	・岡山市と協議を行い、北区(大供公園)と東区(上道公民館)に災害ボランティアセンターの設置を決定		
	・災害ボランティアセンター開設について広報連絡 ・フェイスブックに災害ボランティアセンター開設について情報掲載 ・災害支援ネットワークおかやま第1回情報共有会議に参加		・被災状況の現地確認(平島地区) ・東区連合町内会役員協議会への参加
7/10(火)	・災害ボランティアセンター開設準備		
	・災害ボランティアセンター本部を岡山市保健福祉会館7階(小会議室)に設置 ・災害ボランティア登録者に活動協力を要請 ・ボランティア受付開始(市内在住、在勤、在学の方のみ) ・ノートルダム清心女子大学の学生ボランティアが本部スタッフとして活動開始		
7/11(水)	・災害ボランティアセンター開設 ・ボランティア活動開始		
		・岡山市ふれあい公社 職員派遣開始	
		・大阪狭山市社協 職員派遣開始 ・ローラー作戦を実施(陵南地区)	・東区連合町内会 応援派遣開始(11日から13日まで)
7/12(木)	・災害支援ネットワークおかやま第2回情報共有会議に参加	・県内ブロック社協 職員派遣開始	

日付	本部	北区	東区
7/13(金)	・ホームページに災害ボランティアセンターの特設ページを開設	・中国ブロック社協 職員派遣開始	
7/14(土)		・ローラー作戦を実施(津高地区)	
7/15(日)			・平島学区町内会長会と協議
7/18(水)	・災害派遣等従事車両証明書発行に係るボランティア活動確認書発行について広報連絡	・北区災害ボランティアセンターの受付場所を大供公園から岡山市役所本庁舎1階 北区選挙管理委員室に変更	
7/19(木)		・猛暑のため、ボランティア活動終了時間を午後3時から午後2時に変更	
			・近畿ブロック社協 職員派遣開始
7/20(金)	・7月21日から22日のボランティア受付時間の変更について広報連絡(受付時間 午前8時30分から午前11時) ・ボランティア募集対象の変更について広報連絡(市外、県外の方の受け入れを開始) ・ボランティア対象年齢について広報連絡(対象を高校生以上とし、中学生は保護者同伴であれば受け入れ可)	・ニーズ調査を実施(御野地区)	
7/21(土)	・災害派遣等従事車両証明書発行に係るボランティア活動確認書の発行を開始	・ボランティア受付を午前8時30分から開始(21, 22日のみ) ・市外、県外の方のボランティア受け入れを開始 ・ボランティア対象年齢を高校生以上とする(中学生は保護者同伴)	
7/22(日)		・ニーズ調査を実施(牧石地区)	
7/23(月)	・北区災害ボランティアセンターニーズ調査のため、ボランティア募集及び派遣の休止について広報連絡(24, 25日のみ)	・ボランティア用のステッカー(名札)を導入	
7/24(火)		・近畿ブロック 職員派遣開始 ・ニーズ調査(北区、中区、南区)のため、ボランティア募集及び派遣を休止	・瀬戸南高校の学生ボランティアがチラシのポスティングを実施
7/25(水)			・瀬戸南高校の学生ボランティアが「ポスティング作戦～瀬戸南高校スマイル隊～」と名付け、継続してポスティングを実施

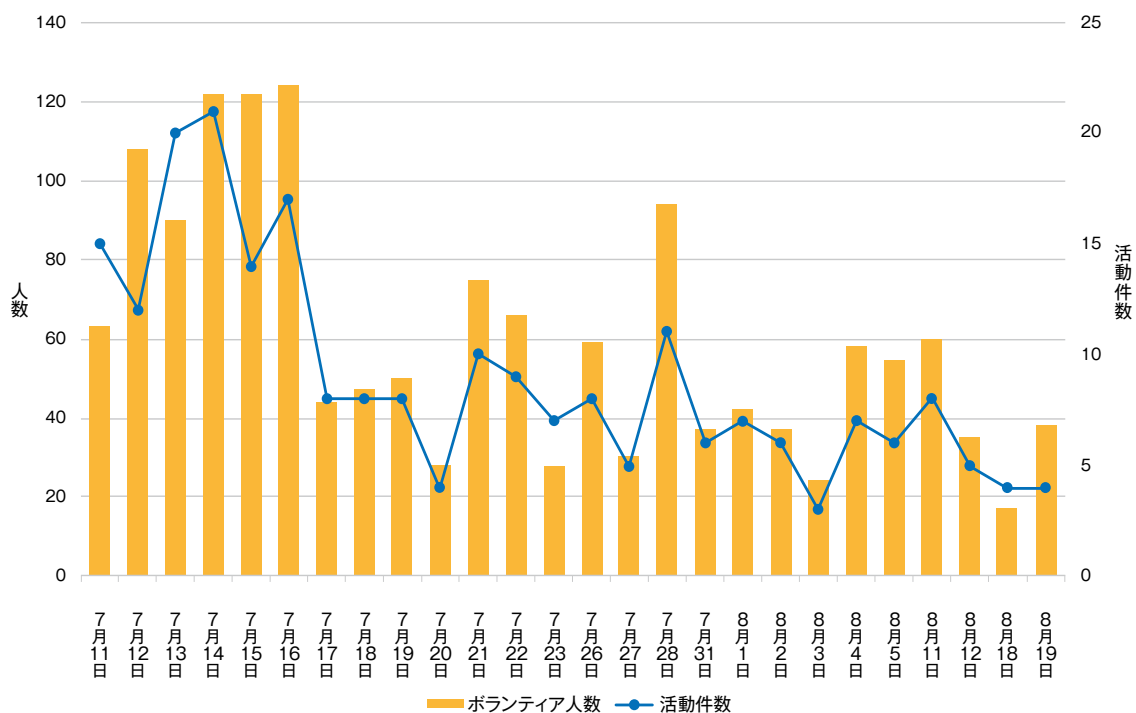
日付	本部	北区	東区
7/26(木)			・赤磐市社協 山陽老人福祉センター みのり荘「足王乃湯」の無料券をボランティアに配布開始
7/27(金)	・台風12号の接近に伴う、ボランティア活動について広報連絡 ・台風12号の接近に備え、土と土のう袋の無料配布について広報連絡		
7/28(土)		・台風12号の接近に伴い、ボランティア受付時間を変更(受付時間 午前8時30分から午前10時)	・台風12号の接近に備え、土と土のう袋を無料配布(岡山県立青少年農林文化センター三徳園) ・平島地区町内会長会と協議
7/29(日)		・台風12号の接近のため、ボランティアセンター休所 ・ボランティア依頼の受付のため、職員2名を配置して対応	
7/30(月)		・台風12号の影響によるニーズ調査のため、ボランティア募集及び派遣を休止	
7/31(火)	・北区災害ボランティアセンターの組織変更について広報連絡		
8/4(土)		・ニーズ調査を実施(鯉山地区)	・応援メッセージボード「つながりの木」をボランティアセンターに設置
8/5(日)		・ニーズ調査を実施(津島地区)	
8/6(月)	・お盆期間の休止について広報連絡(13日から15日まで)	・ 北区復旧支援ボランティアセンターへ移行 ・ボランティア依頼の受付は平日に実施、ボランティア活動は土日を実施	
8/7(火)	・スカイプを導入し、各ボランティアセンターと本部の情報共有会議を開始	・北区復旧支援ボランティアセンターの設置場所を岡山市役所本庁舎1階から大供公園コテナに変更	
8/9(木)	・本部の設置場所を岡山市保健福祉会館7階(小会議室)からひまわり福祉会館に変更		
8/10(金)		・ニーズ調査の実施(横井地区)	

日付	本部	北区	東区
8/13(月)	・お盆期間のため、ボランティアセンター休所		
8/14(火)			
8/15(水)			
8/19(日)			・平島地区町内会長会と協議 ・小島の森団地集積場の閉鎖
8/20(月)	・北区復旧支援ボランティアセンター、本部の電話受付時間の変更について広報連絡(受付時間 午前10時から午後4時)		
8/21(火)	・電話受付時間を変更(受付時間 午前10時から午後4時)		
8/22(水)	・北区復旧支援ボランティアセンター閉所について広報連絡 ・台風19, 20号の接近に伴う、ボランティア活動の休止について広報連絡 ・東区災害ボランティアセンターの組織変更について広報連絡		
8/23(木)	・東区復旧支援ボランティアセンターにおけるインターネット事前受付について広報連絡(25日から受付開始)		・台風19, 20号の接近に伴い、活動終了時間を正午に変更
8/24(金)		・ <u>北区復旧支援ボランティアセンター閉所</u>	・台風19, 20号の接近のため、ボランティアセンター休所
8/25(土)	・東区復旧支援ボランティアセンターにおけるインターネット事前受付を開始	・ <u>市社協に常設しているボランティアセンターへ移行</u>	
9/1(土)			・ <u>東区復旧支援ボランティアセンターへ移行</u> ・ボランティア依頼の受付は平日に実施、ボランティア活動は土日に実施 ・インターネット事前受付者活動開始
9/15(土)			・平島地区町内会長会と協議
9/19(水)	・東区復旧支援ボランティアセンター閉所について広報連絡		
9/22(土)			・ <u>東区復旧支援ボランティアセンター閉所</u>
9/23(日)			・ <u>市社協に常設しているボランティアセンターへ移行</u>

■ ボランティア活動の状況

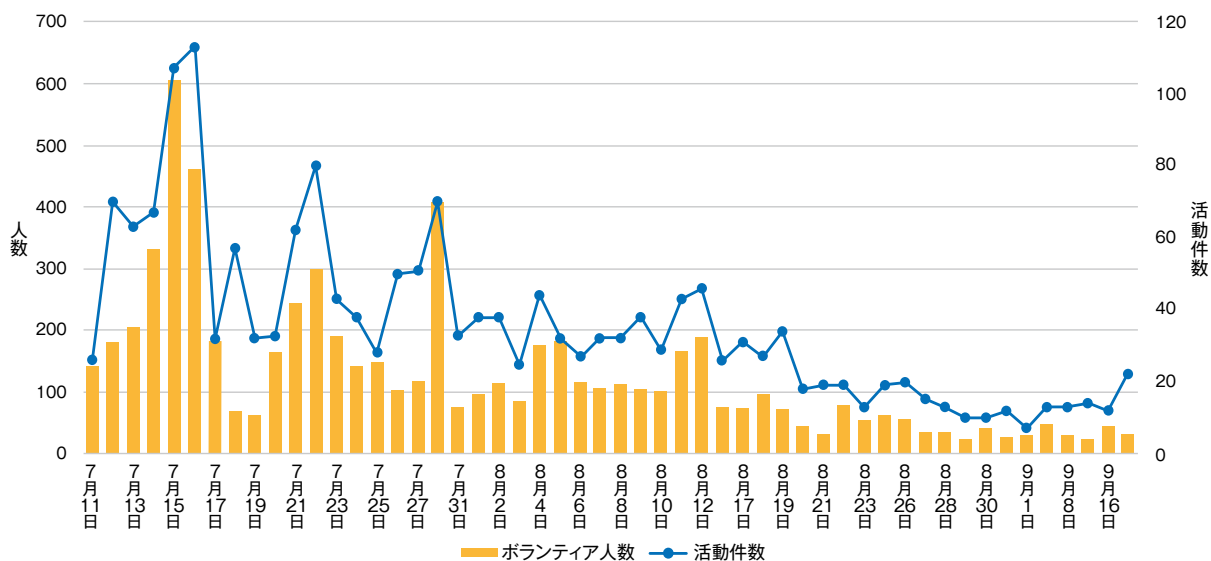
○ 北区災害ボランティアセンター（北区復旧支援ボランティアセンター）

活動期間	7月11日～8月19日
活動件数	233件
延べ人数	1,552名



○ 東区災害ボランティアセンター（東区復旧支援ボランティアセンター）

活動期間	7月11日～9月22日
活動件数	1,846件
延べ人数	6,737名



全体として、7月11日から9月22日までの活動件数は**2,079**件となり、延べ**8,289**名のボランティアに活動していただきました。

■ 関係機関等からの運営協力

災害ボランティアセンターは、関係機関の皆様からの職員派遣をいただき運営することができました。岡山県内社協より延べ 204 名、岡山県外社協より延べ 323 名、その他団体から延べ 437 名と、全体で 964 名の応援がありました。

岡山県内社協職員 述べ 204 名

(名)

岡山県	備前市	赤磐市	美咲町	鏡野町	新庄村	吉備中央町	美作市	和気町
4	63	49	39	18	10	8	7	6

岡山県外社協職員 述べ 323 名

(名)

神戸市	大阪市	堺市	京都市	鳥取県・市	大阪狭山市
98	92	59	39	22	13

その他団体 述べ 437 名

(名)

岡山市職員	岡山県災害 救援専門 ボランティア	日本赤十字社 岡山県支部	岡山市 ふれあい公社	岡山 NPO センター	ノートルダム 清心女子大学	岡山市職員 労働組合	その他
86	111	54	53	21	24	15	73

■ 支援物資

主な支援物資

- ・ 飲料
- ・ 軍手
- ・ 防塵マスク
- ・ オスバン S
- ・ うちわ
- ・ 虫よけスプレー
- ・ 氷
- ・ 皮手袋
- ・ マスク
- ・ ヘルメット
- ・ シャベル
- ・ 大型扇風機
- ・ タブレット、塩飴
- ・ ゴム手袋
- ・ 長靴
- ・ 冷蔵庫
- ・ ゴーグル
- ・ 化粧水
- ・ 冷却アイテム
- ・ 雑巾、タオル
- ・ ブルーシート
- ・ 冷凍庫
- ・ 高圧洗浄機
- ・ カレー券
- ・ 文房具
- ・ 土のう袋
- ・ 軽トラ
- ・ クーラーボックス
- ・ ペール缶
- など

■ 支援金

岡山県共同募金会災害準備金	10,307,194 円
全国社会福祉協議会（大規模災害支援活動基金）	4,860,000 円
災害支援に対する寄付金（24 件）	5,113,441 円

■ 団体・地域との連携

○ 災害支援ネットワークおかやま

発災直後の7月9日から災害支援ネットワークおかやま主催の被災地域で活動している支援団体が集まる情報共有会議に参加し、被害状況と支援状況の情報共有、今後の支援に関する調整を行いました。また、豪雨災害における民間支援活動の中間報告会にも参加しました。



○ 東区災害ボランティアセンター運営に関する協議会

7月28日、8月19日、9月15日に東区災害ボランティアセンター運営に関する協議会を開催しました。各機関の活動状況の報告や、災害ボランティアセンターのボランティアの参加状況、ニーズ状況、今後のスケジュールなどを話し合い、意見交換をしながら地域との連携を図りました。



<参加者>

- ・岡山市東区長
- ・平島学区連合町内会
- ・岡山市役所
- ・民生委員児童委員協議会
- ・岡山市社会福祉協議会

■ 災害ボランティアセンター本部の役割

○ 本部スタッフの役割

- ・ ホームページやフェイスブックでの情報発信
センター設置場所、受付時間、持ち物・服装について
ボランティア募集人数、活動者数、活動の様子について（毎日更新）
- ・ 電話やメール等による問い合わせ対応
ボランティア依頼の受付
ボランティア活動希望者の相談対応
支援物資の受け入れ、調整
マスコミへの情報提供、取材調整
- ・ ボランティア活動者数等の集計
- ・ 災害派遣等従事車両証明書に係るボランティア活動確認書発行の事務手続き
- ・ ボランティア活動保険の加入手続き
- ・ システムによるインターネット事前受付
- ・ スカイプによる各ボランティアセンターとの情報共有会議
- ・ 市との連絡、調整、情報共有会議
- ・ 従事職員のシフト作成
- ・ 会議資料作成

○ 本部スタッフ構成メンバー

- ・ 岡山市社協職員
- ・ 学生ボランティア（ノートルダム清心女子大学）

○ 情報発信について

岡山市社協のホームページに災害ボランティアのページを開設し、災害ボランティアの情報を掲載しました。フェイスブックでの情報発信を始め、ボランティアの募集状況、活動中の写真の掲載、日々変わる情報を随時発信しました。また、毎日マスコミへの情報提供を行い、テレビや新聞を通じて情報の発信を行いました。



第3章

北区災害ボランティアセンター

第3章

北区災害ボランティアセンター

■ 地域の特徴（令和元年 12 月末現在）

○ 北区

人口：296,134 人

世帯数：144,327 世帯

面積：450.70 km²

北区は、緑豊かな山間地と清流旭川に沿って開けた平野部からなり、多様で豊かな自然環境がありますが、都心部は県都・中枢拠点都市の商業業務機能や大学等の高等教育機関が集積されています。面積は 4 区の中で最も広く、岡山市の約 57%を占めています。区域内に山陽自動車道岡山 IC・吉備スマート IC、岡山の玄関口である岡山駅・岡山空港があり、広域交通基盤が整備されており、岡山城、後樂園を中心とするおかやまカルチャーゾーンが歴史文化的な都市空間を形成しています。

○ 中区

人口：147,533 人

世帯数：68,042 世帯

面積：51.24 km²

中区は、北には龍ノ口山、中央には操山の丘陵地、西には旭川、東には百間川、南部には児島湾に面した干拓による平野部があります。都市部と繋がっている水と緑豊かな住宅地で、人口密度は 4 区の中で最も高い区域となっています。

主要幹線道路・岡山港周辺に生産・流通施設が集積されており、南部の干拓地を中心に米作を中心とした優良農地が広がっています。

○ 南区

人口：169,658 人

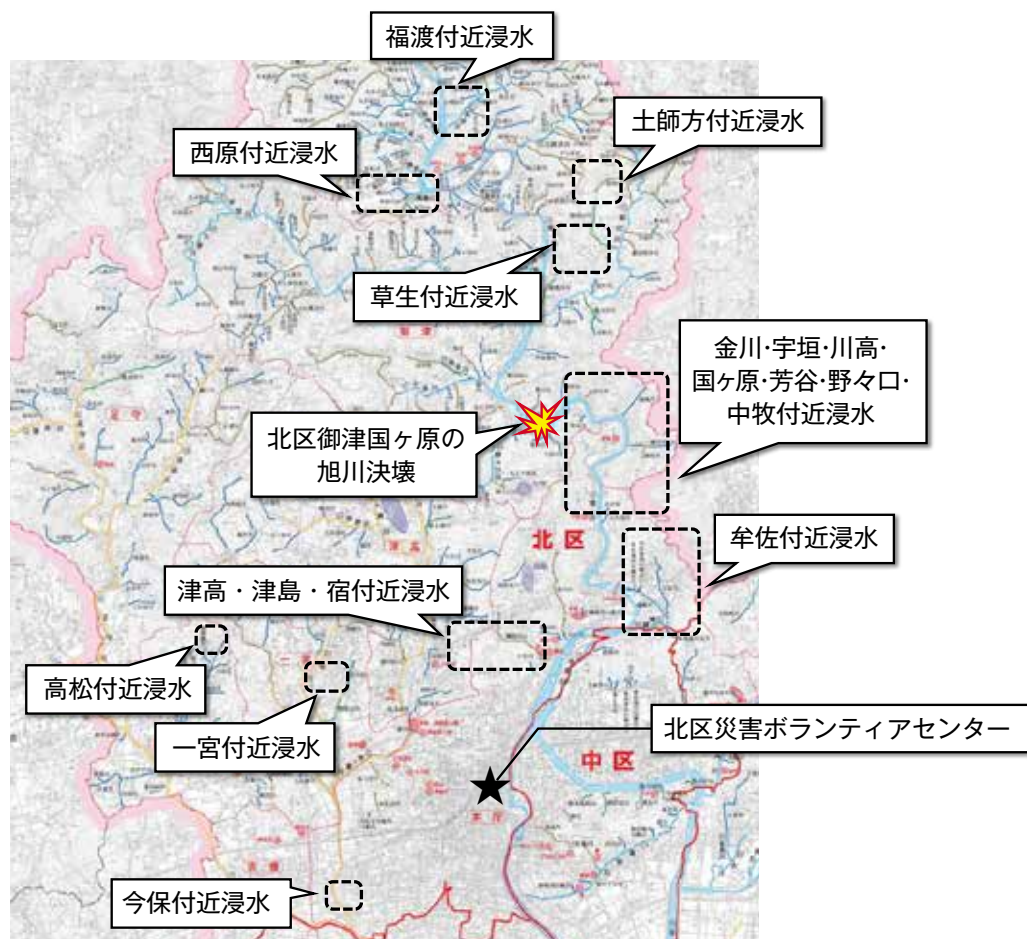
世帯数：75,141 世帯

面積：127.48 km²

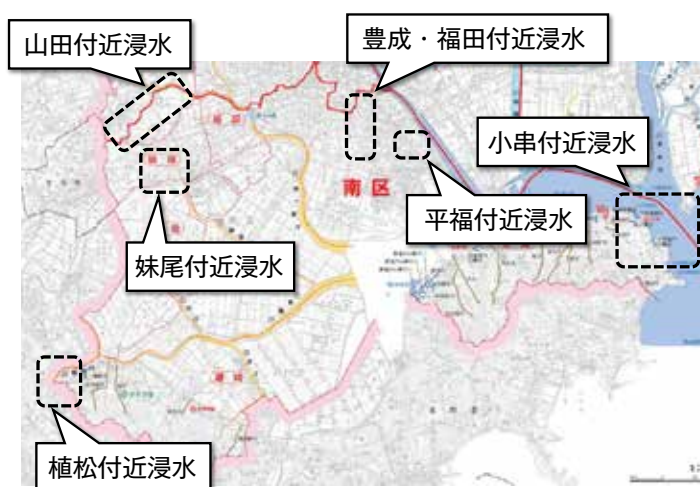
南区は、世界有数の人造湖である児島湖を囲むように地域が広がり、東には旭川、中央に笹ヶ瀬川、南部に倉敷川が流れています。区域の約 55%が干拓地であり、岡山市農業の中心をなす穀蔵地帯を形成しています。また、浦安総合公園、灘崎町総合公園などの公園やスポーツ施設が整っているため、子育て環境も充実しています。

■ 被害状況

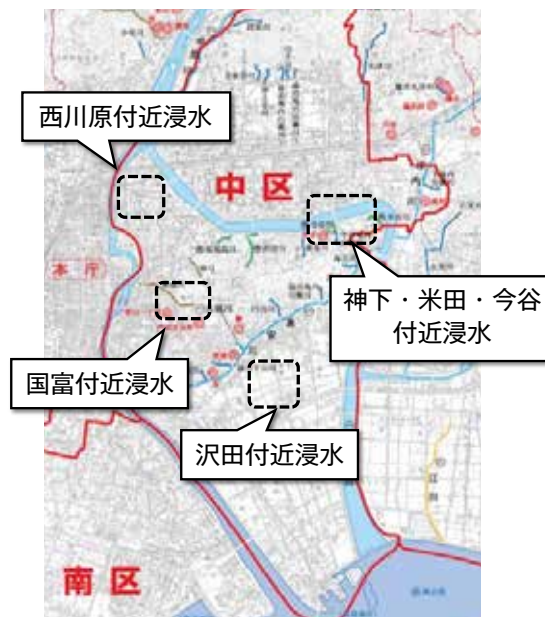
北区



南区



中区

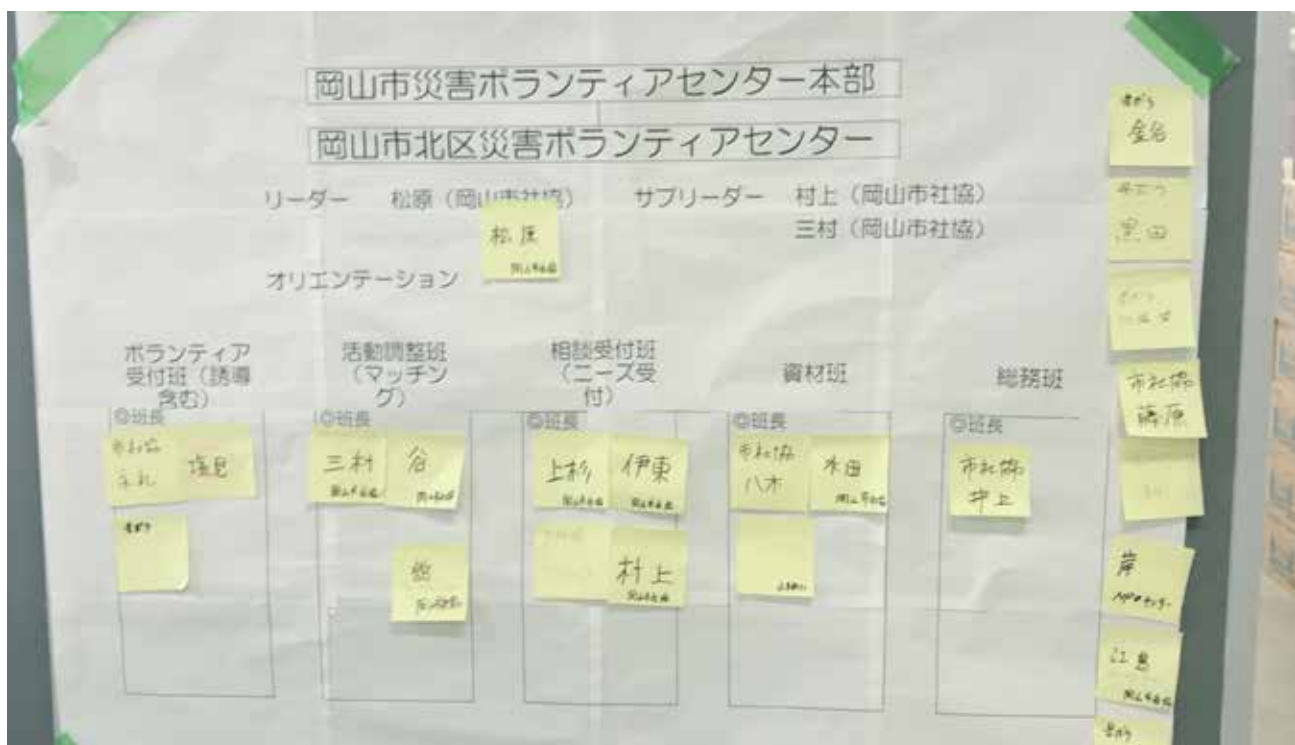
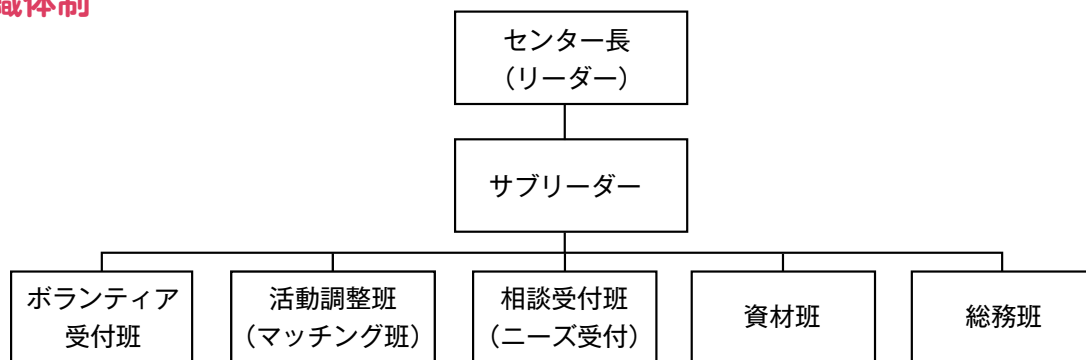


【出典】岡山市下水道河川局

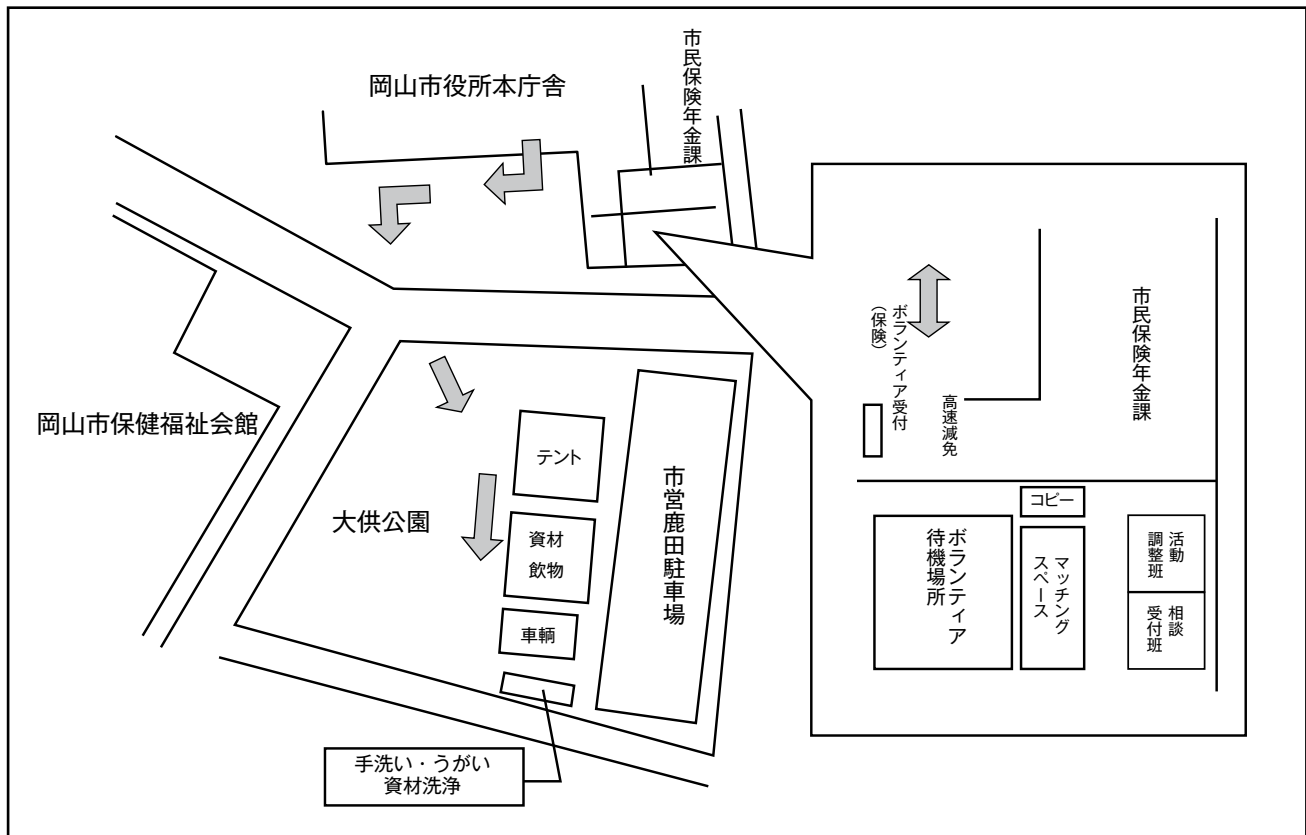
■ ボランティア活動拠点



■ 組織体制



■ 北区災害ボランティアセンターのレイアウト図



■ 北区災害及び復旧支援ボランティアセンターでの活動

北区災害及び復旧支援ボランティアセンターは、北区・中区・南区の3つの区を集約して活動を行っていました。

○ 相談受付と活動調整（マッチング）

センター設置以降は随時、被災された方からの困り事の相談を受け付け、必要に応じて現地調査を行いました。相談は、被災者本人だけでなく、遠隔地に住む家族・親族、町内会や民生委員、福祉専門職など多様な方々からの相談がありました。被災ゴミを集積所まで運んでほしいという内容の依頼が多く、地元町内会等の協力をいただき、点在した集積場所を確認するため情報収集を行いました。

ボランティア活動の調整においては、オリエンテーション時に活動における心構えや注意事項を紙芝居にまとめて分かりやすく伝え、丁寧なマッチングを心掛けました。また、猛暑の中でのボランティア活動となり、熱中症対策のため、現地のボランティアに昼休憩や活動終了時等に電話連絡をこまめに取り、状況確認に努めました。

岡山駅からのアクセスが良いこともあり、遠方から新幹線等を利用して度々参加されたボランティアも大勢おられました。

ボランティアの活動先への送迎が難しい中、案内等にも苦慮しましたが、ボランティア同士の協力やスマートフォンの地図アプリの活用等により、各自で活動先へ向かっていただきました。

○ ニーズ把握の課題

対象地域が広域（北区・中区・南区）かつ被災箇所が点在し、局所的に河川の決壊や土砂崩れの地域があったものの、被災世帯の多くが用水の増水による浸水被害であったため、水が引いた後は家屋の外観からは被災状況の判断が難しく、ニーズの把握が課題となりました。

平素から、地域福祉活動に取り組んでいる社協支部・地区社協の役員の協力をいただき、被災地域の民生委員や町内会と連絡をとり、詳細を把握していきました。特に被害が集中している地域には、地元町内会や民生委員の協力を得て、災害ボランティアセンターのチラシを配布していただき、ボランティアの協力により被災世帯を周ってポスティングを行いました。

また、市環境局の協力により、市内の被災ゴミ集積場所の情報を得て、被災地域の絞り込みを行うことが出来ました。

○ 他機関との連携

北区災害ボランティアセンター立ち上げ段階においては、大阪狭山市社協の職員派遣を受け、機材提供や活動調整班のスタッフとして運営の中枢を担っていただきました。その後は、県内社協、中国ブロック社協、近畿ブロックの政令指定都市社協（京都市）からの職員派遣により、活動調整班やニーズ受付班、現地調査等にも入っていただきました。特に、おかやまNPOセンターのスタッフには継続して活動調整や現地調査等を担っていただき、住宅地図への被災世帯のマーキング等にもご協力いただきました。

また、専門知識のある地域ボランティアにアドバイザーとして参加いただいたり、岡山県災害ボランティア登録者に受付や資材管理を継続して担っていただくなど、センター運営面でもボランティアに支えられて運営が行われました。

○ 活動の様子



朝礼



ニーズ受付



オリエンテーション・マッチング



支援物資の受付



現地調査・ポスティング作業

第4章

東区災害ボランティアセンター

第4章 東区災害ボランティアセンター

■ 地域の特徴（令和元年12月末現在）

○ 東区

人口：95,149 人

世帯数：41,770 世帯

面積：160.53 km²

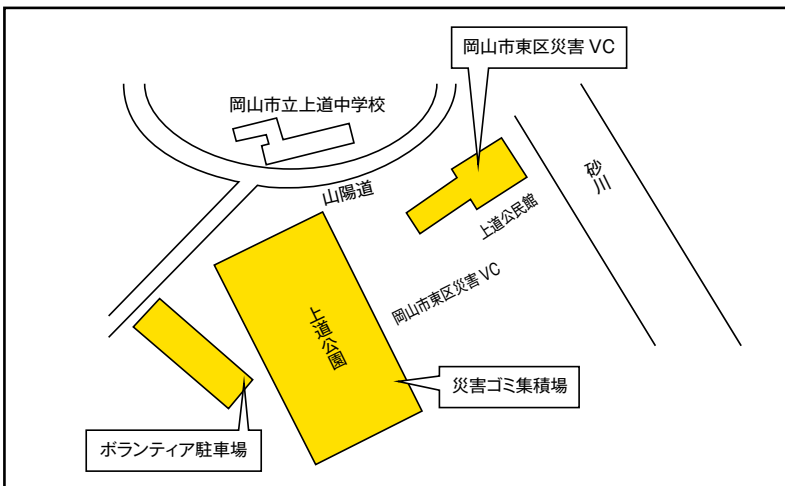
東区は、吉井川、砂川が貫流し、中央には芥子山、南は児島湾、瀬戸内海に面しています。沖合には市内唯一の有人離島である犬島があり、吉井川、百間川の河口一帯には、干拓による広大で豊かな農地が広がり、良好な自然景観を形成しています。観音院の門前町として発展した経緯から、臨海部や新産業ゾーンに工業が集積されており、岡山市製造業の中核となっています。

■ 被害状況

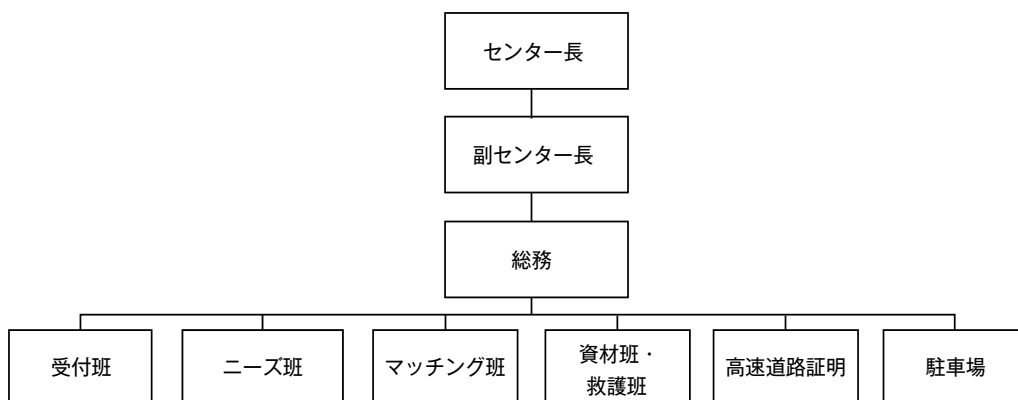


【出典】岡山市下水道河川局

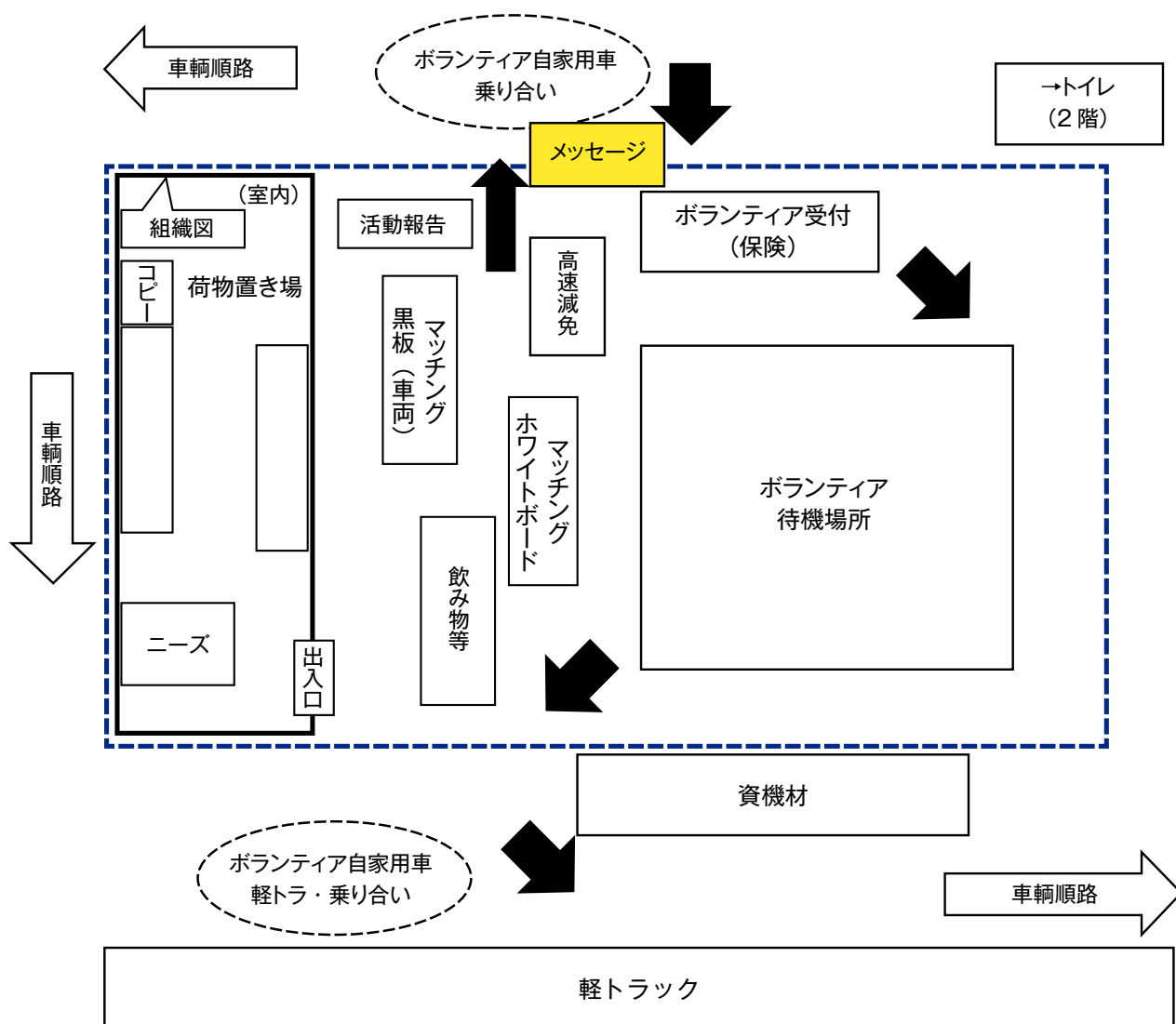
■ ボランティア活動拠点



■ 組織体制



■ 東区災害ボランティアセンターのレイアウト図



■ 東区災害ボランティアセンター

○ 住民に寄り添った支援

被災地に隣接した場所にセンターを設置できた強みとして、日に日に変わっていく被災地の現状や、被災者のニーズ把握が容易になり、臨機応変な対応が可能となりました。住家に対する支援を原則としながら、生業と思われるニーズへの活動に対する丁寧な説明や、多岐にわたるニーズ相談への柔軟な対応を心がけました。被災住民に寄り添う現地訪問調査に加え、その状況に寄り添っていただけるよう丁寧なマッチングを心がけることによって、ボランティアの方々と繋がっていくことができたと思います。

復旧支援ボランティアセンターへ移行後については、ボランティアの参加人数も減少する中、住家に対する支援を原則としました。

○ さまざまなボランティアの協力

センター立ち上げから活動をするうえで、社協職員のみでの災害ボランティアセンター運営には初日から早々に限界を感じました。そのような中、センター開設直後から、さまざまな立場の方々が集い、災害ボランティアセンター運営に力を貸してくださいました。不足している物品を無償で提供、貸出をしてくださったり、酷暑の中を活動されるボランティアのために冷えたタオルを渡して回ってくださったり、かき氷等をふるまってくださったりと、さまざまな形でご協力をいただき、大変心強く感じていました。

「被災された方々のために何か力になりたい」という思いを持った方々が大量協力してくださり、災害ボランティアセンターは“善意の中継基地”になっていたと思います。

○ 平時からの取り組みが活かした地域連携

災害発生後すぐに被災地域に出向いて町内会長や民生委員児童委員と連携できたことや、開設当初に必要な資器材の準備が間に合わない状況にあった際には、地域住民の方々からの声かけにより提供をいただくなど、混乱期の中にあって比較的迅速に対応ができたと思います。

地区民生委員児童委員協議会の会長はセンターに常駐し、ニーズの把握や道の案内を率先して行ってくてくださいました。また、町内会役員の方々も、ご自身も被災されているにも関わらず、町内でのボランティア活動のコーディネートに協力をしてくださいました。町内会長を核にした地域マッチングは、ボランティアを集団でそのエリアに送り込めることから、地域の防災力・福祉力向上につながると考えられ、いかに互助の力が有効かつ効率的な活動展開になり大切であるかを痛感しました。

○ 他機関との連携

県内社協、近畿ブロックの政令市社協からの職員派遣を受けたことで、メンバー交代を派遣元社協同士で実施していただくことで、一定期間で入れ替わる応援職員間ともセクション内での引継ぎがスムーズにできたと思います。

また、小島の森団地、西平島エリアに拠点を構えて活躍する Take action やチームはるはるといったボランティアグループと連携した支援、活動展開ができたことは、ボランティアが活動をしていく上で、効率的な被災者支援につながったと考えます。臨時の被災ゴミ集積場となっていたセンター隣の上道公園には、市環境局職員が常駐していたため、被災者支援に不可欠なゴミ処理分野との密な連携をとることができました。

他にも、飲み物や氷を提供してくださった企業や、戸別訪問をして災害ボランティアセンターチラシのポスティングをしてくださった高校など、たくさんの団体や企業等の協力のもとでセンターの運営を行えたことは、東区災害ボランティアセンターの強みであったと言えます。

○ 活動の様子



ボランティア受付



オリエンテーション・マッチング



資材調達



災害ゴミ集積場での活動



土のう作り



地域の方との会議

第 5 章

岡山市豪雨災害での活動をふりかえって

第5章

岡山市豪雨災害での活動をふりかえって

災害ボランティアセンターは県内外を問わず多くの方にご協力をいただきました。
ご協力いただいた皆様から当時はふりかえってメッセージをいただきました。

■ 近畿ブロック応援職員

堺市社会福祉協議会 様

地域福祉課／川端・増岡

中区事務所／嘉戸

東区事務所／橋折・宮崎・永富

西区事務所／橋本



岡山を元気にしないとニッポンが心配だ！

堺市社会福祉協議会 応援職員一同（運営支援者＆ボランティア）



南区事務所／小川・植田

北区事務所／水田

美原区事務所／小林

生活支援課／植谷・冬田・守屋・錦見・稲田・池添

大阪市社会福祉協議会 様



京都市社会福祉協議会 様



神戸市社会福祉協議会 様



7月18日から8月31日まで計26名の職員が岡山市に赴き応援させていただきました。

記録的な暑さのなか、復旧に向けた混乱が続く期間でしたが、岡山市社協のみなさんが気持ちよく受け入れてくださり、何とか役割を果たせたのではないかと思います。

ボランティアの受付に際しては、神戸市社協が開発したweb上の「ボランティア事前受付システム」を活用いただきました。微力ではありましたが、阪神・淡路大震災の際に頂いた多大なるご支援に、少しでもご恩返しができたとすれば幸いです。

■ 中国ブロック応援職員

鳥取県社会福祉協議会及び鳥取県内社会福祉協議会 様



鳥取県内社協は、発災後の7月の3連休前から支援に入り、地元社協、各地からの支援者とともに復旧への取り組みに関わりました。

平成28年鳥取県中部地震でご支援いただいた私たちは、いち早く応援に向かいたいという思いでいっぱいでした。

支援に入ると、休みなく懸命に地域住民への支援を行う地元社協職員。連日の猛暑、経験のない中でのボラセン運営に戸惑い、疲弊する姿がありました。もう少し運営の形が整理できないか、思いをともにする多くの支援者と一つひとつ課題を克服していくことから始めました。

岡山市災害ボラセンでの支援を通して、人と人の結びつきの大切さ、多くの人に支えられていることへの感謝の思いを強めたこと、また、地域福祉を推進する役割を担う社協の在り方を実感しました。

岡山県社会福祉協議会 様



岡山市社協の皆様、このたびの災害ボラセン開設・運営について本当にご苦労様でした。

特に、岡山市では北区と東区において同時に2つの災害ボラセンを立ち上げなければならず、当初に関わられた職員各位におかれましては、暗中模索のなか本当に大変だったものと、そのご尽力ご労苦に心からの敬意を表します。

岡山県がこれほどの甚大な被害、又広域かつ同時多発的な被害を受けたことは、ここ数十年なかったことです。本会も県外ブロック職員、県内社協の応援派遣や資機材・備品の調整など、初めてのことばかりで、このたびの運営支援のなかで、色々なことを教訓として、共に学ばせていただきました。

巡回支援をさせていただいたなかで、市社協の皆さんが、素晴らしいチームワークで、日々大変な被災者支援のコーディネートに当たられていた姿が、今でもとても印象に残っています。

どうかこのたびのご経験や培った“つながり”を貴重な財産として生かし、平時からの“住民主体による支え合いのまちづくり”の業務に邁進されることを県社協職員一同、心より期待しております。皆様、本当にお疲れ様でした。

美咲町社会福祉協議会 様



赤磐市社会福祉協議会 様



新庄村社会福祉協議会 様



備前市社会福祉協議会 様



美作市社会福祉協議会 様



和気町社会福祉協議会 様



吉備中央町社会福祉協議会 様



鏡野町社会福祉協議会 様

応援職員の皆様、本当にありがとうございました！

■ 支援者として

日本赤十字社岡山県支部 様



災害救護活動は日本赤十字社の最も重要な使命です。医療救護、こころのケア、義援金募集等の活動を展開しましたが、特に救援物資の配布については発災前から赤十字防災ボランティアの協力を得ながら活動しました。

また、岡山市と倉敷市の災害ボランティアセンターへ赤十字防災ボランティアを継続的に派遣し、運営支

援活動を行いました。記録的猛暑のなか活動するボランティアの熱中症予防のため、赤十字救急法指導員ボランティアを中心に熱中症対策レクチャーも行うとともに、ミストファン等を提供しました。

ボランティアの活動は復旧・復興のためには欠かせません。今後とも、災害支援ネットワークおかやまへの参画をはじめ行政や社協と連携した活動促進に取り組んで参ります。

岡山NPOセンター 様



7月豪雨災害の被災者支援のために、岡山市北区災害ボランティアセンター（以下VC）に派遣されました。連日の激務の中でも運営の効率化や改善のため、ひいては被災者と参加するボランティアのため、日々の反省会を欠かさなかったこと、また反省会を経て日々運営に磨きをかけたこと、大変勉強になりました。

豪雨の陰に隠れがちですが、あの夏は災害級の酷暑でした。印象に残っているのは、朝から晩まで野外で活動したボランティアの皆さんも、連日VCを運営する社協のスタッフも、みんな朝来る時よりいい顔で帰路につくことです。「人の役に立っている」という実感は、人の顔を輝かせるものなのですね。

岡山市社会福祉協議会の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。

公益財団法人 岡山市ふれあい公社 様



西日本豪雨災害で、いつも見慣れた町の光景が一変した時の衝撃は、今でも昨日のここのように思い出されます。

複雑な思いのなか西大寺ふれあいセンターからも東区災害ボランティアセンターにお手伝いに行かせていただきました。主に被災者のニーズ聞き取りやボランティアを希望される方からの電話対応などを担当しま

したが、大勢のボランティアの方に助けられて被災地が徐々に復興していく様子を間近にみるのができたのは何物にも代えがたい喜びでした。

この数日間で改めて人と人のつながりの大切さを学ぶとともに、生涯忘れることのできない貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

大阪狭山市社会福祉協議会 様



平成30年7月豪雨により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。私たちは災害ボランティアセンター開設初日から6日間、運営の支援をさせていただきました。

開設初日はさまざまなことがありましたが、岡山市社会福祉協議会の職員のみなさまを中心に各関係機関、地域の住民の方が連携・協力し、とても温かみのある災害ボランティア

センターにかわっていったと思います。

振り返ると運営支援者の私たちが、本当にたくさんのことを学ばせていただいたと感謝いたします。ありがとうございました。

ノートルダム清心女子大学 がんばるんジャー 様



災害ボランティアセンターでの活動として、個人や団体のボランティアの受け入れ業務を行いました。活動を通して一番驚いたことは、ボランティア志願者の多さです。私はボランティア受け入れ開始初日から関わらせていただきましたが、ボランティア志願者からの電話が一日中鳴り止まなかったことを覚えています。県外からの電話も多くありました。

困っている人の助けになりたいという方々の声に、とても感動しました。

災害がないと言われている岡山で、たくさんの助けを求める声を聞くと何か力になりたい、助けたいという気持ちを強く感じました。災害ボランティアは私自身初めての経験だったため、物資の協力や様々なボランティア活動により、たくさんの人が助け合い連携しているのを見ることによって、人と人とのつながりの重要性を学ぶことができました。

Take action 様



社会福祉協議会と連携し道具や人員の確保を行いました。主に、小鳥の森団地内の支援活動を実施しました。具体的には、物資お渡し、ニーズ調査、屋内清掃、家屋運び出し、災害ゴミ撤去、側溝泥出しです。現在は支援から自立、団地内互助のためにカーシェアリングの運営のフォローをしています。災害が少ないからか、岡山の県民性か、ボランティア

に免疫がなく、信頼関係を結ぶまでに他の地よりかなりの時間を要しました。物資渡しや炊き出しなどを行った際には、どの支援も助かった、というお声をいただきました。

チームはるはる 様



私は、平成 30 年 7 月 7 日早朝より、自宅周辺の支援活動を開始しながら、状況を SNS で発信しました。NGO チームはるはるの友人がすぐに動き始めたおかげで、水が引いた 7 月 9 日から、メンバーと一緒に南古都団地と小鳥の森団地で活動し、西平島地区が支援の手が届いていないことを知り、7 月 10 日以降は西平島地区の復旧活動に当たりました。その中で、西平島公会堂は床上浸水していましたが、迅速な清掃活動を行い、物資供給場所として潤滑な機能を果たしました。

災害ボランティアセンターが設立されてからは、全国各地からのボランティアを派遣していただき、官民一体となつての支援を行うことができ、とても良かったと思っています。活動にあたっては行政、民間、地域のトライアングルの良好な関係性を保つことや、住民の自立を妨げないことに特に気にかけてきました。多くの支援者による協力体制が功をなし、誠心誠意を尽くすボランティアの姿に、住民の方も感動して下さり、絆が深まり、片付け依頼がしやすい空気感が漂っていたことで、活動の効率がアップしたような気がしています。特に、公会堂前の楠木がもたらしてくれた木陰は、酷暑の中での作業で疲弊した西平島町民やボランティアの心と身体を癒し、いつも涼風が吹き、とても恵まれた環境でした。

この支援活動を通して、メンバーも専門知識を深め、経験値をアップしました。今後どこかで何か起きたときに、各人がそれぞれの場所で判断をして役割を果たす事ができると思うし、とても強いつながりもできたことは、みんなにとって大きな収穫だと思います。今でも西平島の住民の方とボランティアの交流は続いており、町のこれからの復興支援として、農業支援チームも立ち上がり、今後の活動もとても楽しみです。

また、岡山市社会福祉協議会の現場で動いていた若者もとても誠心誠意を尽くし、動いていたこともとても印象に残っています。岡山県民・市民の中にも、熱意ある、持続した支援をする方々に出会えたこと、これからの岡山を担う若者と多く出会えたこと、そして日本各地、そして海外から、思いやりの心が集まったことは、大変な出来事が起きた中でもとても大切な宝物になりました。ありがとうございました。心からの感謝をこめて。

第6章

被災者支援活動への対応から見えた
課題と今後の取り組み

災害ボランティアセンターの運営から得られた経験や今回対応できなかったこと、他の方法があったことなどの課題を整理し、今後の取り組みにつなげていきます。

■ ニーズについて

(ニーズ：困りごとや助けてほしいこと等。ボランティアに協力を依頼したい人の思いや声にはなっていないが活動につなげる必要のあること)

【課題】

○ ニーズの把握について

潜在的なニーズを掘り起こすために、現地調査、個人宅へのチラシのポスティング、町内会と連携した広報活動を実施しました。しかし、災害ボランティアセンターの存在や活動内容の情報が行き届いていないことから、ボランティアに活動を依頼することに抵抗がある方もおられました。

また、町内会に加入していない方は広報が届きにくいという課題が残りました。

【今後の取り組み】

- ニーズの把握は従来の方法だけでなく、地域との関係が出来ている職員（支えあい推進員や地域担当職員）が担当します。これにより、地域の人でも安心して話ができるためニーズ把握が進み、迅速かつスムーズな活動に取り組めると考えられます。
- 平時から、災害ボランティアセンター活動を身近に感じてもらえる仕組みづくりをします。（パネル展等イベントでの掲示、ホームページや広報紙による啓発、事例紹介等）

【課題】

○ 対応すべきニーズの範囲について

活動対象は、個人の居住スペースとしました。しかし、復興するには自宅兼店舗の店舗部や広い敷地内の整備、農地、側溝等判断が難しいケースが多数ありました。災害ボランティアセンターの開所時と閉所時では状況もかなり異なりました。

【今後の取り組み】

- 災害ボランティアセンターマニュアルの改訂とともに活動対象について検討します。

■ 運営について

【課題】

○ ボランティアの円滑な送り出しについて

「受付をしてから活動が始まるまでの待ち時間が長い」というご意見を多くいただきました。

【今後の取り組み】

- 複数日継続して参加いただける方は、事前に活動先の調整を行う等、効率的な運用方法を考えます。また、待ち時間の短縮に努めると同時にマッチングの進捗状況が分かるパネルや映像を作成して情報提供を行います。

■ 他機関との連携

【課題】

○ 技能ボランティアの受け入れについて

看護師や建築関係者等、技能ボランティアの申し出に対応することができませんでした。

【今後の取り組み】

- 災害ボランティアとして技能ボランティアの登録を促し、活動を調整できる団体との連携体制を整えます。

【課題】

○ スムーズな災害ボランティアセンターの運営と運営スタッフの確保について

今回は県内外社協等に運営支援をいただきましたが、災害ボランティアセンターの運営にはマンパワーが足りない状況でした。

【今後の取り組み】

○ 岡山市と特定非営利活動法人岡山 NPO センターとの連携強化

- ・ 平時から、災害時に連携が必要な団体等との体制づくりを構築します。
(町内会、大学、施設、企業、NPO 等)
- ・ おかやま災害ボランティア・支援活動ネットワーク会議を開催して、災害時に活動協力が得られる関係づくりを行います。

○ 災害ボランティアセンター事業の周知・活動の啓発

災害ボランティア養成講座を開催し、基礎知識習得の場を設け、災害時に円滑に活動できる人材の養成を行います。

■ 情報について

【課題】

○ 被災者、ボランティア希望者、他機関への情報発信について

市民やボランティアから「電話がつながらない。問い合わせ先が分からない」というご意見やホームページの情報が分かりづらいという問い合わせがありました。

【今後の取り組み】

○ 情報発信の明確化

情報発信専門のセクションを作り、ホームページや SNS を活用し、分かりやすく必要な情報を発信します。

【課題】

○ 本部、北・東区災害ボランティアセンター間での情報共有について

災害ボランティアセンターでは日々状況が変わり、情報共有の方法が明確でなかったため、正確な情報が伝わっていませんでした。

【今後の取り組み】

○ 情報共有方法の明確化

災害ボランティアセンターに関わっている職員だけでなく、他の職員にも情報が共有されるようにします。

【その他】

○ 職員の人材育成

- ・被災地の災害ボランティアセンターへ積極的に職員派遣を行います。
- ・職員の災害に関する研修への参加機会を増やします。

○ 必要な支援物資の確保について

発災後、たくさんの方に支援物資を提供していただきましたが、災害時に必要な支援物資等をあらかじめ準備し、活用できるようにします。

○ 災害ボランティアセンター運営マニュアルの改訂

平時から、誰が見ても分かりやすい災害ボランティアセンター運営マニュアルを作成し、定期的に更新して災害時にスムーズな対応が可能な状態にします。

第 7 章

資料

山陽新聞 2018年(平成30年)7月11日 水曜日

西日本豪雨

浸水し土砂流入の平島小

被災地利用前線による豪雨で、校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ平島小学校（岡山県東平島）で授業再開のめどが立っていない。被害が広範囲にわたり、子ども

たちが登校できる環境が整わないため、10日は最大ボランティア（岡山県東平島）の学生らもボランティアで清掃に加わり、復旧を支援した。



同小は7日早朝から豪雨が続き、校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ。校舎4階全面が浸水し、校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。

8日午後には、校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ。校舎4階全面が浸水し、校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。

授業再開めど立たず

環太平洋大生ら 清掃で復旧支援

2018年(平成30年)7月19日

2230棟浸水 岡山・平島地区

住民 疲労の復旧作業

17日夜、平島地区（岡山県東平島）の豪雨で、校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ。校舎4階全面が浸水し、校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。

西日本豪雨

エアコン、風呂壊れ



岡山県東平島地区は、西日本豪雨による豪雨で、校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ。校舎4階全面が浸水し、校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。

た。市教委によると、豪雨で校舎1階に大粒の土砂が流れ込んだ。校舎4階全面が浸水し、校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。校舎内は土砂で埋め尽くされた。

西日本豪雨 生活関連情報

ボランティア

【岡山市】市社会福祉協議会が上道公民館（東区竹原、受け入れ：080-2931-9842など、派遣要請：080-3348-3072など）の東区災害ボランティアセンターで午前9時から午後4時に対応。市役所本庁舎1階（北區大供、受け入れ：080-2932-0242など、派遣要請：080-3348-1552など）の北區復旧支援ボランティアセンターは原則、土・日曜日のみボランティアを派遣する。対象は15歳以上（中学生は保護者同伴）。13、15日は休止。

2018年(平成30年)8月11日 土曜日

激励 感謝

復興へ気持ちは一つ

メッセージボードびっしり

西日本豪雨で浸水被害を受けた岡山市東区で、市社会福祉協議会が上道公民館（同竹原）に開設している災害ボランティアセンターにメッセージボードが置かれている。全国から支援に入った参加者と被災者の復興への気持ちを一つにしようと市社協などが企画。ボードには激励や感謝の言葉がびっしり並ぶ。（須藤里恵）

西日本豪雨 東区のボランティアセンター

センター入り口にあるボードは縦約1・7m、横約1・3m。タイトルは「つながりの木」で、被災者とボランティアをつなげる意味を込めた。参加したボランティアが桃の形をしたカードにメッセージを書いて貼る仕組みになっている。同センターに被災者から感謝の電話が相次いでいることから、形にしてボランティアにも共有してもらうと4日にボードを設置。その後は連日



ボードにメッセージを貼るボランティアの参加者＝7日

の書き込みがあり、被災者の声を市社協の職員が代筆したカードを合わせ、7日時点で約130枚に上っている。

東日本大震災で被災した岩手県大槌町から駆け付けたボランティアは「みなさんが笑顔で生活できますように」と思いを記し、被災者は「自分の力ではできないことばかりでした」といった言葉を寄せている。7日もボランティアが次々とボードにカードを貼った。大阪府枚方市から夫婦でボランティアに参加した藤原陽子さん(35)は「被災者の言葉が励みになる。また参加したい」と話していた。

住民の絆 “平島の奇跡”

大規模浸水も人的被害ゼロ

西日本豪雨で旭川水系・砂川の堤防が決壊して、大規模な浸水被害が発生した岡山市東区平島地区。未明に住宅団地が濁流にのみ込まれ、一帯の2231棟が浸水したにもかかわらず、死者・行方不明者といった人的被害はなかった。関係者からは「奇跡的」との声も。同地区で一体何が起り、住民らはどう動いたのか。当時の証言を基に“あの日”を振り返った。

(須藤里恵、中村啄也)

西日本豪雨

県によると、堤防が決壊したのは7月7日午前1時半すぎとみられ、浸水範囲は約750軒。住宅の浸水被害が県内最多の7700棟余りとなった市内で、約3割が同地区一帯に集中した。市が8月30日に明らかにした決壊状況では、浸水の深さは「小川と水を持って2階に向かった鳥の森団地」(同南古都)で最

大で約2・5メートルに達していた。県によると、堤防が決壊したのは7月7日午前1時半すぎとみられ、浸水範囲は約750軒。住宅の浸水被害が県内最多の7700棟余りとなった市内で、約3割が同地区一帯に集中した。市が8月30日に明らかにした決壊状況では、浸水の深さは「小川と水を持って2階に向かった鳥の森団地」(同南古都)で最

大で約2・5メートルに達していた。県によると、堤防が決壊したのは7月7日午前1時半すぎとみられ、浸水範囲は約750軒。住宅の浸水被害が県内最多の7700棟余りとなった市内で、約3割が同地区一帯に集中した。市が8月30日に明らかにした決壊状況では、浸水の深さは「小川と水を持って2階に向かった鳥の森団地」(同南古都)で最

- 平島地区の対応のポイントや特徴**
- ◆消防団員らが速やかに「垂直避難」を呼び掛ける巡回広報を地域で展開
 - ◆平屋の住宅を優先して救助が必要な人を捜索
 - ◆住民が近隣世帯の状況を把握し、駆け付けた消防署員らに情報提供
 - ◆住民同士で率先して助け合う「共助」の意識が高い



【上】自宅前で浸水した位置を示す平島学区連合町内会長の中村さん【下】砂川の氾濫で浸水した東区南古都の住宅街。7月7日午前5時55分(市消防団休分団提供)

垂直避難、救出劇も

同地区一帯では中村さんのように自宅の2階へ「垂直避難」した住民が多かったとされる。鳴らしても出てこない。何度もは道沿いの家のインターホンを押して異常を知らせたという。豊田さんの家から30分ほど離れた場所には80代の女性が一人で平屋に暮らしていた。消防に連絡したが「今は向かえない」と分析。今回の経験を生かすため地域でのヒアリングを含め、一連の行動を記録する作業に取り組みという。

密な関係「共助」生きる

率先して被災者支援に動いた住民も。南古都町内会の泊良博さん(68)「同南古都」から約20人は、浸水で自宅から出られない人のため、同8日に炊き出しを展開した。

おにぎり約500個をボート2隻に積んで移動し、首まで水に漬かりながら、家の2階から手を振る住民を見つけては玄関まで届けていった。泊さんは「助けた」との思いが強く、体が勝手に動いていた」と回想する。

自宅でおにぎりを受け取ったさん(81)「同所」は「パニックに陥っていたが、おにぎりをもらい気持ちを落ち着かせられた」と話した。

住民の行動について、平島団地町内会の防犯・防災部長を務める妹尾久志さん(67)「同東平島」は「隣近所の関係が密でどこに誰が住んでいるかを把握し、共助の精神も身に付いていた」と分析。今回の経験を生かすため地域でのヒアリングを含め、一連の行動を記録する作業に取り組みという。

写真

つながりの木（東区）

東区災害ボランティアセンターでは、地域の方からボランティア活動者へお礼の電話をたくさんいただいております。その言葉をボランティアの皆様にも伝えたい、という思いで「つながりの木」を設置しました。

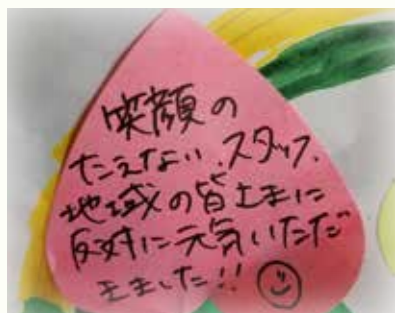
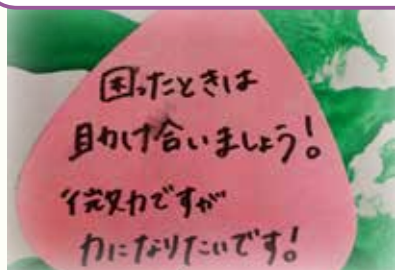
地域の方からのメッセージ（黄緑色）、ボランティア活動者からのメッセージ（桃色）を貼り出し、お互いの思いを目に見える形にしました。



近畿ブロックの社協職員のアイデアから
生まれました！



枝や葉を職員の手で表現しました。



たくさんのメッセージをありがとうございました！

○ 災害ボランティアセンター 写真集





冷たいかき氷の提供



ご支援いただいた物資の数々



地元の社会福祉法人からの協力



こころ温まるメッセージ付きの支援物資



災害ボランティアセンター最終日

たくさんのご協力ありがとうございました！

あとがき

平成30年7月豪雨災害から約1年半が経過しました。私たちはこれまで経験したことのない大きな災害に直面し、混乱状態の中、災害ボランティアセンターの開設及び運営、そして生活復興に向けて、被災者個々の生活課題に対応した多様な支援を行ってまいりました。

災害ボランティアセンターにご支援いただきましたボランティアの皆様、また物心両面にわたりご支援を賜りました皆様並びに関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。

災害ボランティアセンターを複数立ち上げるという初めての試みにおいて、何をどう判断するか葛藤する場面も多々ありました。今回の経験を踏まえ、残された課題を検証し、社会福祉協議会が災害時に役立つ組織として地域の方から信頼を得られるよう研鑽を積んでいく所存でございます。

災害ボランティアセンターにおいて、私たちが心がけたことは、「被災された方の声に耳を傾け、ご本人の気持ちに寄り添った支援をすること」、「ボランティアの方が気持ちよく活動できるようサポートすること」、「被災された方と地域や関係機関をつなぐ役割を果たすこと」でした。連日の暑さと疲れの中、職員を勇気づけたのは、全国からかけつけたボランティアの方の熱意とやさしさ、災害から立ち上がろうとする被災された方の生きる力、被災地で生まれた助け合いの輪でした。

被災された方が、今後も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、困った時はお互い様の精神で見守り、助け合う「地域のつながり」をつくっていくことが社会福祉協議会の重要な使命であると改めて認識しています。

本誌を手にとっていたいただいた皆様が、改めて防災を意識し、家族や地域で災害とその備えについて話し合い、行動するきっかけとなりましたら幸いです。

今後、「地域での安否確認・見守り活動」、「ふれあい・いきいきサロンなどの集いの場づくり」などはもとより、生活困窮者や社会的孤立を背景とする深刻な生活課題の解決に取り組み、地域に暮らす人が安心して生活できる「福祉のまちづくり」に取り組んでいく所存でございますので、なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会
常務理事 山 上 晃 稔

平成 30 年 7 月豪雨災害
岡山市災害ボランティアセンター 活動報告書

発 行	令和 2 年 3 月
部 数	2,000 部発行
発 行 者	社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会 〒 700-8546 岡山市北区鹿田町一丁目 1-1 TEL.086-225-4051 FAX.086-222-8621
写真提供等協力	岡山市・山陽新聞社・アジア航測株式会社・市民の方
参考資料	平成 26 年 8 月 20 日豪雨災害 広島市・区社会福祉協議会活動報告書



～皆様のメッセージがつまった、つなかりの木～
社会福祉法人 岡山市社会福祉協議会